

平成30年度 自己点検・評価書

豊田工業高等専門学校 平成30年度年度計画	実績報告(自己点検書)	自己評価	
<p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1 豊田市ほか地域の校長会等で学校要覧、今年度実施行事に関する資料を配付し、中学生の進学先の一つとしてアピールする。 また、豊田市中高連携協議会に参画し、中学生及び保護者向けイベントに参加する。《1》</p> <p>①-2 教員が愛知県及びその近隣市町村まで含めた中学校を対象に、主要校は毎年、その他の学校は2年に1度訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供する。《2》</p> <p>①-3 新1年次学生が出身中学校を訪問するなどして学生の視点から見た本校の情報を提供する。《3》</p> <p>①-4 教員が中学校主催の進学説明会等へ積極的に参加し、情報提供を行う。《4》</p> <p>①-5 塾関係者対象の説明会などへも参加し、より多くの関係者に情報提供を行う。《5》</p> <p>①-6 地域住民やメディア等へ積極的に本校の学校行事等について情報提供する。《6》</p>	<p>《1》豊田市中高連携協議会に参画し、本協議会の事業である「豊田市高等学校魅力発見フェスタ2018」(10月21日開催)に参加した。本フェスタにおいて、約1万人の来場者(主に豊田市内及びみよし市内の中学生とその保護者)に対して本校のPRを行った。</p> <p>《2》7月から9月にかけて、教員が県内約300校の中学校を訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供し、かつ情報収集を行った。</p> <p>《3》6月から10月にかけて、72名の1年生が、出身中学校を訪問し、学生の視点から本校の情報を提供する。《3》</p> <p>《4》中学校主催の進学説明会(5校)に出向き、中学生及び保護者に本校の特徴及び入試情報等の説明を行った。 また、中学校の総合学習の一環である上級学校訪問(1校)を受け入れ、施設見学等を通して本校の特徴について説明し、進路決定の参考となるようPRを行った。</p> <p>《5》昨年度に引き続き、愛知県私塾協同組合主催の私塾講師対象の私立学校合同説明会(三河地区(10月17日)、尾張地区(10月23日))に参加し、本校の特徴及び入試情報等について説明を行った。</p> <p>《6》以下のメディア等により、本校の行事等について情報が発信された。(『』はタイトル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『旭・笹戸地区散策 小学生が動画制作』(新三河タイムス:4/5) ・『多読で英語力アップ』(静岡新聞:4/16) ・『豊田高専発ドミタウン2018 高専生とコンクリートで遊ぼう!』(新三河タイムス:5/24) ・『工事現場でICT見学会 豊田高専生と市技術職員ら160人が参加』(新三河タイムス:5/31) ・『地域ジャーナル(工事現場でICT見学会)』(ひまわりネットワークTV:6/1~6/14) ・『EV軽トラで朝どれ野菜出荷 小水力発電で充電 企業と豊田高専が協力』(矢作新報:6/22) ・『技術力グローバル力を磨く 中学卒業後高専という選択』(中日新聞:6/24) ・『私たちが憧れの「高校球児」技術磨いて打率5割超』(朝日新聞:6/27) ・『「カリヨンハウス」イベント広場を無料開放 豊田高専学生6人三好ヶ丘駅前で実証実験』(新三河タイムス:6/28) ・『高校野球愛知大会(野球部)』(ひまわりネットワークTV:7/1) ・『高専プログラミングコンテスト 豊田の13人全国へ』(中日新聞:7/13) ・『「朝採れ電気自動車直行便」開始 稲武の大野瀬町梨野地区の住民』(とよみよしホームニュース:7/27) ・『ススメ!部活道(ハンドボール部)』(ひまわりネットワークTV:8/4~8/31) ・『いま子どもたちは 高専で学ぶ1 専門追求トコトン5年間』(朝日新聞:10/28) ・『いま子どもたちは 高専で学ぶ2 住宅設計に挑戦 3棟売れた』(朝日新聞:10/29) ・『いま子どもたちは 高専で学ぶ3 歴史や国語もバランスよく』(朝日新聞:10/30) ・『いま子どもたちは 高専で学ぶ4 他学年と暮らす寮生活「本当に濃密」』(朝日新聞:10/31) ・『いま子どもたちは 高専で学ぶ5 五つ上の先輩と部活 上達早い』(朝日新聞:11/4) ・『いま子どもたちは 高専で学ぶ8 「好き」突き詰めて専攻科まで』(朝日新聞:11/7) ・『全日本大学駅伝(本校学生が東海学連選抜チームの選手として出場)』(名古屋テレビ:11/4) ・『国際会議で優秀発表賞』(新三河タイムス:11/1) ・『地元高専生に長期授業』(日本下水道新聞:10/24) ・『地元高専生に長期授業、上下水道の理解深める』(日本下水道新聞:11/5) ・『豊田高専の清水さん、実験結果を議論の材料に、国際会議で優秀発表賞、みよし市長を表敬訪問』(新三河タイムス:11/22) ・『国際会議で優秀賞、三好ヶ丘テーマに高専の清水さん発表』(矢作新報:11/30) ・『福祉送迎AIで効率化』(中日新聞:12/6) ・『豊田高専の久田さん 今春東大へ編入 TOEICも800点超え』(新三河タイムス:1/10) ・『プログラミングに熱中 湖西で小中学生講座』(中日新聞:2/5) ・『プログラミング、高専生が講師役 湖西で小中学生が講座』(静岡新聞:2/6) ・『SNSで豊田をPRして 高校生が市長にアイデア』(中日新聞:2/3) ・『カリヨンハウス多目的室 平日昼間の利用促進が課題 豊田高専5年生が無料開放実験』(新三河タイムス:2/7) ・『川の防災「量堤」実証実験 愛知の高専生長良川で量はめ込み』(中日新聞:2/22) ・『「量堤」共助の遺産 長良川の越流、量持ち寄り防ぐ、愛知の高専生、PR企画』(岐阜新聞:2/24) ・『量はめ込み氾濫防ぐ 量堤の伝統競い、伝える「選手権」高専生考案』(読売新聞:2/27) 	◎	年度計画を上回って実施している
<p>②-1 愛知県及び隣接県の中学生、保護者及び中学校教諭を対象に学内外で行う「学校説明会」を延べ10以上の会場で実施し、本校の特色、入試情報(マークシート方式の採用)、及び「オープンキャンパス」の説明をする。《7》</p> <p>②-2 中学3年生を対象とした「体験入学」を実施し、その際、女子の在校生、卒業生及び女性教員による女子中学生向けの高専女子講座を行う。《8》</p> <p>②-3 女子学生の受け入れ増のため、受入れ体制の整備を行うとともに、女性教員の採用推進に努める。さらに、改修して増員する女子寮のPRを行う。これに加え、通学生が安心して通学できるよう、通学路の安全性を引き続き確保する。《9》</p> <p>②-4 高専女子フォーラム等の機会を利用し、女子学生志願者増に取り組む。《10》</p>	<p>《7》昨年度に引き続き、愛知県及び隣接県の主な中学校の生徒、保護者及び中学校教諭を対象に学内外で行う「学校説明会」を6月から11月にかけて11会場で実施し、本校の特徴及び入試情報等の説明を行った。 また、体験入学、オープンキャンパス、豊田市魅力発見フェスタ及び文化祭の際に、個別相談を主体とした進学相談コーナーを設けた。</p> <p>《8》8月4日に中学3年生を対象に「体験入学」を実施(参加者数720名)し、学科別の体験授業等を行い本校の特徴をPRした。 また、女子の在校生、卒業生及び女性教員による高専女子講座を行い、73名の参加者があった。</p> <p>《9》4月に女性教員1名を採用した。 また、学校説明会やオープンキャンパス等において、特に女子寮については、安全対策(セキュリティの強化として二重ロック、防犯カメラの設置、及び寮母の設置等)を充実させている旨の説明を行った。 また、朝の交通安全指導を春、夏、秋、冬の交通安全週間に実施し、近隣の通学路を含む学生指導を実施した。</p> <p>《10》機構が作成したリーフレット「KOSEN × GIRLS」を、学校説明会及びオープンキャンパス等において積極的に女子中学生に配布した。</p>	○	年度計画を十分に実施している
<p>③-1 入学案内、PRリーフレット、オープンキャンパスチラシ及び学科の紹介誌等を作成し、中学校等へ配布するとともに、各種行事においても本校ロボット等のデモンストレーションを実施し、参加者らにアピールする等の広報活動を継続する。《11》</p> <p>③-2 本校ウェブページを随時更新し、入試情報、教育活動状況及び進路状況等について掲載し、広く情報を公開する。《12》</p>	<p>《11》入学案内、PRリーフレット、体験入学・オープンキャンパスチラシ及び学科の紹介リーフレットを作成した。特にPRリーフレットについては、県内全中学校及び隣接する県外の一部中学校の3年生全員に配布及び体験入学・オープンキャンパスチラシについては、3年生の全クラスに掲示いただけるよう送付した。 さらに、オープンキャンパスチラシについては、豊田市役所内にある記者クラブへチラシ提供を行うなどし、今年度のオープンキャンパスの参加者数は10月6・7日の2日間で合計990名であった。 8月25日に開催された豊橋技術科学大学のオープンキャンパスに本校からブース出展し、本校ロボカップチーム「KIKS」による体験企画とポスター等による本校PRを実施した。本校ブースには約150名の来場者があった。</p> <p>《12》本校ウェブページを随時更新し、入試情報、教育活動状況等について掲載し、広く情報を公開した。 また、進路状況については、各学科のウェブページで公開している。</p>	○	年度計画を十分に実施している
<p>④ 推薦選抜における面接では、ものづくりに関する質問をするなど、引き続き本校の教育にふさわしい人材をアドミッション・ポリシーに基づいて的確に選抜できるよう適切な入試を実施する。《13》</p>	<p>《13》推薦選抜の面接時に、ものづくりに関する質問をするなどについて入試委員会で検討を行った。 また、学力検査でのマークシート方式に対応するため、体験入学でマークシートを利用した講座を行い、中学生に説明した。</p>	○	年度計画を十分に実施している
<p>⑤-1 入学者の学力水準の維持に努めるとともに入学志願者数を維持するため、地元校長会、各中学校及び地元の進学塾が開催する入試説明会等を訪問し、県下の志願者動向に関する情報を収集・分析する。《14》</p> <p>⑤-2 引き続き機構から周知される事例を検討し、実施できるものから実施する。《15》</p>	<p>《14》7月から9月にかけて、教員が県内約300校の中学校を訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供し、かつ情報収集を行うとともに県下の志願者動向に関し入学試験実施委員会で分析を行った。 さらに昨年度に引き続き、愛知県私塾協同組合主催の私塾講師対象の高校説明会(三河地区(10月17日)、尾張地区(10月23日))に参加し、本校の特徴及び入試情報等について説明を行った。</p> <p>《15》機構が作成したリーフレット「KOSEN × GIRLS」をオープンキャンパス等において積極的に女子中学生に配布した。 また、体験入学では、女子の在校生、卒業生及び女性教員による高専女子講座を行った。中学生やその保護者に「高専」及び「ものづくり教育」を理解してもらうために、機構から配布された高専紹介DVDを学校説明会、体験入学及びオープンキャンパスの会場で放映した。</p>	○	年度計画を十分に実施している

豊田工業高等専門学校 平成30年度年度計画	実績報告(自己点検書)	自己評価
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1 モデルコアカリキュラム(試案)に基づき、かつ5～10年後の高専卒業生に必要な能力を検討した上で構築した新しいカリキュラムを順次適用する。また、引き続き、社会情勢の変化等に対応した専攻科の在り方等を不断に検討するとともに、外部有識者等の意見を積極的に取り入れる。《16》</p> <p>①-2 教育改善推進室が実施する授業改善に関するアンケート等の資料を基に、各教員が自己評価を行い次年度以降に役立てる。《17》</p> <p>①-3 専攻科のさらなる充実に向け、社会や産業界のニーズを踏まえたPBL型教育をカリキュラムに組み込み、自治体や企業と連携した「共同教育」として、その推進を図る。《18》</p>	<p>《16》モデルコアカリキュラムに基づく新カリキュラムを構築し、平成28年度入学者から順次適用している。また、とよたイノベーションセンターの活動(企画会議等や企業訪問など)を通して、豊田市・豊田商工会議所及び地域のものづくり企業各社から社会の意見を吸い上げ、社会情勢の変化に対応した専攻科の在り方を検討している。</p> <p>《17》前期は7月に授業改善に関するアンケートを行い結果を取りまとめ10月初旬に各教員ならびに校長へ報告した。なお、対応策は各教員において学生へフィードバックを講義の際に行い、以降の授業改善の資料としている。それらの結果はファイルにし10月初旬に各学科・学生へ公開している。また、後期も同様に授業改善に関するアンケートを2月に行い、取りまとめた結果は各教員に報告した。対応策は3月中旬に各教員が作成し、4月の新学期前に取りまとめ校長へ報告するとともに各学科・学生へ公開した。</p> <p>《18》本校並びに豊田市及び豊田商工会議所が連携し設置したとよたイノベーションセンターの教育プログラムの一つである「一気通観エンジニアの養成プログラム」に専攻科生を参加させ、地元企業技術者との混成チームでのPBL教育を実施し、本年度は26名(9期生 企業受講者数10名、高専専攻科生16名)が修了証書を授与された。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>②-1 機構が実施する学習到達度試験を第3学年全員に受験させ、学力の定着度を把握する。《19》</p> <p>②-2 年2回TOEIC-IP団体受験を学内で実施する。9月下旬に実施する試験では、本科第3学年及び専攻科1年次の学生に対し、全員受験を義務付ける。更に、英文多読・多聴を全学科で実施し、英語力の向上を目指す。《20》</p> <p>②-3 TOEIC、実用英語技能検定、工業英語能力検定等の資格取得を奨励し、実践力の強化を引き続き図る。また、TOEIC、実用数学技能検定については、学内団体受験(検)を引き続き、年2回実施する。《21》</p> <p>②-4 専攻科1年「総合英語I」において、外国人英語指導助手を活用したチームティーチングにより、アウトプット活動の充実をはかる。《22》</p>	<p>《19》昨年度の到達度試験の結果をもとに、全国平均との比較、平均値の経年変化、学科別、領域別正当回答率を教務委員会において分析した。平成30年10月から平成31年1月の間に第1学年から第4学年生全員を対象としてCBT試験を実施し、結果を教務委員会で分析した。</p> <p>《20》年2回TOEIC-IP団体試験を学内で実施する。1回目は5月6日に行い、34名が受験した。2回目は、本科第3学年及び専攻科第1学年の学生全員に受験を義務付けたもので、9月29日に行い、279名の学生が受験した。さらに、全学科で英文多読・多聴を実施し、英語力の向上を目指す。</p> <p>《21》4月から、実用英語技能検定等の資格取得を奨励する資料を教室に掲示し学生に周知した。学内団体受験については、6月23日に1回目の実用数学技能検定(56名受験)を行い、12月1日に2回目の学内団体受験(131名受験)を行った。TOEIC-IP試験は5月6日に1回目(34名受験)を行い、9月29日に2回目の学内団体受験(279名受験)を行った。</p> <p>《22》専攻科1年「総合英語I」(計28時間)において、外国人英語指導助手を活用したチームティーチングを導入し、英語によるディスカッションおよびプレゼンテーションを効果的に行う知識・技能を習得させ、アウトプット活動を充実させた。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>③-1 教育改善推進室が中心となって、平成21年度から実施し蓄積している卒業生、企業、大学、本科5年生(卒業時)、及び専攻科2年生(修了時)を対象にしたアンケートを継続して行い、教育方法を検証し、改善案の検討を行う。《23》</p> <p>③-2 アンケート結果を全教員へ公開し、教授法改善の資料を提供する。《24》</p> <p>③-3 教員と学生との対話会を実施し、得られた情報等を全教員へフィードバックする。《25》</p>	<p>《23》卒業生(既卒者10年後)、大学、本科5年生(卒業時)及び専攻科2年生(修了時)を対象に、本校の教育内容、学生生活、及び今後の教育の方向性について尋ねたアンケートをそれぞれ11月と2月に行い、その結果の集計分析を行った。その結果は報告書にまとめて教育改善推進室会議を経た後、校長ならびに各学科を通じて教員へ4月に公開した。</p> <p>《24》前期講義科目については10月初旬に全教員へ公開している。また、後期講義科目については、新年度4月の新学期前に取りまとめ校長へ報告するとともに全教員・学生へ公開した。</p> <p>《25》教員と学生との対話会は、対象者を変更し(1年生から4年生各クラス1名とし)、11月14日に開催した。得られた情報は関係部署に報告するとともに学内で公開した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>④ 全国高等専門学校体育大会、同ロボットコンテスト、同プログラミングコンテスト、同デザインコンペティション、同プレゼンテーションコンテスト、高体連の大会及び文化系クラブの外部大会等に学生が積極的に参加できる体制を維持する。《26》</p>	<p>《26》昨年度に引き続き、委嘱した外部コーチによる日常の技術指導、非常勤雇用の課外活動指導員による休日の練習試合及び各種大会等への引率指導を可能とする体制を維持した。また、資金面においても、教後援会による課外活動支援を引き続きお願いし、前述の体制づくりと共に、学生が様々な大会に参加しやすい環境を維持した。</p> <p>また、定期試験期間中に開催される高体連や高専連が主催する公式試合への参加についても、特別欠席の願い出や追試を願い出る学生があった場合のガイドラインを引き続き運用し実施した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>⑤ 学生にボランティア活動や自然体験活動等の様々な体験活動へ積極的に参加できるよう情報発信し、特に夏季休業等長期休暇を有効に利用し参加するよう引き続き、指導する。《27》</p>	<p>《27》自然資源活用ものづくり及び企業と共同でのものづくりの企画、設計、製作などを行う産学連携実践セミナーについて単位認定を行い、学生の参加を促し、実施した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>(3)優れた教員の確保</p> <p>① 科学技術振興機構の研究人材ポータルサイトに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に教員公募に関する周知を行う。公募制を積極的に導入し、全国から多様な背景を持つ有能な人材の確保に努める。《28》</p>	<p>《28》科学技術振興機構の研究人材ポータルサイトに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に教員公募に関する周知を行った。公募制を積極的に導入し、全国から多様な背景を持つ有能な人材の確保に努めた。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>② 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、派遣者推薦及び受入要望を積極的に行う。また、大学・企業等との人事交流制度等を利用した人事交流を実施する。《29》</p>	<p>《29》「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、派遣者の受入について要望を行った。また、大学等と個別に情報交換し、従前からの名古屋大学のほかに新たに愛知教育大学と包括連携協定を締結し、相互に1名の事務職員の人事交流を平成29年4月から実施している。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>③ 専門科目担当教員(一般科目の理系教員を含む)は、博士の学位又は技術士等の資格を有している者の採用を促進する。一般科目担当教員(文系)は、修士以上の学位を有している者の採用を促進する。《30》</p>	<p>《30》専門科目担当教員(一般科目の理系教員を含む)は、博士の学位又は技術士等の資格を有することを採用要件とし、一般科目担当教員(文系)は、修士以上の学位を有していることを採用要件とした。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>④-1 女性教員の積極的な採用に向けて、「能力等が同等であれば積極的に女性を採用する方針である」旨を公募文書に明記する。《31》</p> <p>④-2 男女共同参画推進室が中心となり、女性教員の働きやすい環境の整備に向けて、必要な制度や支援策について検討を行う。また、検討した内容について、全教職員へ周知を図る。《32》</p> <p>④-3 女性教員採用に伴う特別経費配分制度等を積極的に活用する。《33》</p>	<p>《31》女性教員の積極的な採用に向けて、「能力等が同等であれば積極的に女性を採用する方針である」旨を公募文書に明記した。</p> <p>《32》3月に実施された第三ブロック男女共同参画推進担当者会議に参加し、各校の現状と課題について情報交換を行った。</p> <p>《33》女性教員採用に伴う特別経費配分制度は廃止されたが、校内予算で女性職員キャリアアップ研修(9月13日～14日実施)へ1名の派遣を行った。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>⑤-1 教育改善推進室において、例年行っているFDシンポジウム・セミナーを継続して実施する。また、本校の特徴を踏まえた教材選択や教育方法の開発について検討するとともに、教授法について情報交換を行う。《34》</p> <p>⑤-2 FDシンポジウム、セミナーの取り上げる内容を検討し、企画開催する。《35》</p> <p>⑤-3 近隣大学等が実施するFDセミナー等へ教職員を参加させる。《36》</p>	<p>《34》新任教員交流会を6月14日、7月26日と2月18日に開催し、教育、学生指導等について情報、意見交換を行った。授業で使用する機器等や教育改善に関する書籍を貸し出しができることを確認している。</p> <p>《35》FDシンポジウム(中学校における先進教育の現状と題して、中学校教員を講師に迎えて)を11月21日に開催し、中学校で先進的に行われている英語と理科教育を聴講し、意見交換を行った。</p> <p>《36》東海工学教育協会高専部会主催のシンポジウム(12月14日)に6名の教員が参加し、共同教育に関する事例発表等を行った。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>⑥ 本校教員顕彰規則に基づく「教員顕彰委員会」において、教育活動・研究活動・学生指導・社会貢献・学校運営に顕著な功績が認められる教員を選考し、表彰する。《37》</p>	<p>《37》11月13日に開催した教員顕彰委員会において、教育活動・研究活動・学生指導・社会貢献・学校運営に顕著な功績が認められる教員5名を選考し、内2名を高専機構教員顕彰候補者として推薦した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>⑦-1 教員に国内外の大学等で研究・研修する機会を設ける。《38》</p> <p>⑦-2 教員の国際学会への参加を促進する。《39》</p>	<p>《38》研修案内については、随時教員に周知を行った。在外研究員として、1名派遣を行い、次年度1名の派遣を決定した。</p> <p>《39》可能な限り、国際学会等への参加ができるよう、不在中の業務支援を各学科が中心となり実施し、現在まで11名が参加した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>

豊田工業高等専門学校 平成30年度年度計画	実績報告(自己点検書)	自己評価
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①-1 webシラバスを用いた効果的な学習を図る。教育改善推進室において、FDシンポジウム、セミナーを開催し、アクティブラーニングに向けた教育の実例等についても情報共有を図り、アクティブラーニングの実施を啓蒙する。《40》</p>	<p>《40》本校では、モデルコアカリキュラムに基づくカリキュラムを構築し、平成28年度入学者から順次適応している。</p> <p>なお、教育改善推進室において教育課程表、シラバス、定期試験等の資料の選定、保存、保管を行っている。</p> <p>さらに、教務主事グループと教育改善推進室が連携し、アクティブラーニング・ルーブリックへの研修に教育改善推進室教員を派遣し研修内容の報告があった(5月30日)。名古屋大学で開催された、全国高専フォーラム(8月20日～22日)及び第3ブロックAL推進研究会(8月21日)に教務主事グループが参加し情報収集を行った。</p> <p>教育改善推進室においてFDシンポジウム(中学校における先進教育の現状と題して、中学校教員を講師に迎えて)を11月21日に開催し、中学校で先進的に行われている英語と理科教育を聴講し、意見交換を行った。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>②-1 平成33年度のJABEE認定教育プログラムの認定審査等に向け、教育改善のためのPDCAループを確実に推進するため、新たに作成した自己点検・評価フォーマットによりPDCAループを回す。《41》</p> <p>②-2 実用数学技能検定、デジタル技術検定、CAD利用技術者、電気主任技術者、測量士、宅地建物取引士等の資格取得を奨励し、実践力の強化を引き続き図る。《42》</p>	<p>《41》継続的な教育改善のためのPDCAループを確実に推進するため、平成28年度の自己点検・評価報告から導入したフォーマットにより、平成29年度の自己点検・評価報告書を作成した。</p> <p>《42》6月23日に1回目の実用数学技能検定の学内団体受検(56名受検)を行った。また、12月1日には2回目の学内団体受検(131受検)を行った。</p> <p>さらに、デジタル技術検定の学内団体受検を11月25日(22名受検)に実施した。2次元CAD利用技術者試験の学内受検を、5月25日(10名受検)、1月11日(24名受検)、1月28日(6名受検)の3回実施した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>③ 学校の枠を超えた学生の交流活動を促進するため、全国の高専との学生会交流行事に積極的に参加させる。また、東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会に参加し、他高専の外国人留学生との交流を図るとともに、学寮においても、国際交流を活発化させ、外国人留学生に支援を行うため、新しく委員会(Global Friendship Agency)を設置し、留学説明会、納涼祭での食事も、語学教室など留学生との交流の機会を企画し、実施する。《43》</p>	<p>《43》夏季休業期間中である8月27日から29日に仙台高専の学生会が主管となり開催された全国高専学生会交流会に本校学生会が参加し、各校の学生会活動等について意見交換を行った。</p> <p>12月23日から12月24日に、本校が担当校となり開催する豊田市内及び岡崎市内での東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会(歴史的文化財等の見学)に11名が参加した。</p> <p>学寮において、新しく設置した委員会(Global Friendship Agency)による、留学説明会を4月15日及び5月20日に実施した。また、6月24日に実施した納涼祭では食事をを行い、1月20日に実施した新年会では、日本の伝統的な文化体験(風上げ、羽子板など)を行った。さらにExchangeサークルによる語学教室を7月1日、9月30日、10月21日、11月11日、12月2日に実施するなど留学生との交流を行った。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>④ 特色ある優れた教育実践例や取組事例を、「全国高専フォーラム」や、各種学協会の研究会・論文集等を通して公表する。《44》</p>	<p>《44》特色ある優れた教育実践例や取組事例を8月20日～22日に開催された「全国高専フォーラム」や9月18～21日に香港にて開催された「ISATE2018」、各種学協会の研究会・論文集等を通して公表した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>⑤ 作成した自己点検・評価フォーマットにより、情報の見える化を推進するなど、外部評価に向けた継続的な教育改善活動を行う。《45》</p>	<p>《45》平成29年度の自己点検・評価報告結果を本校HPで公表した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>⑥-1 第4学年で実施している「校外実習」をインターンシップの一環と位置づけ、より多くの学生が夏季休業期間中に就業体験をすることができるよう昨年に引き続き実施方法の改善及び近隣企業への協力要請に努める。《46》</p> <p>⑥-2 専攻科においては、より多くの学生がインターンシップに参加できるように努めるとともに、企業や自治体と連携した「共同教育」を実施し、その取組事例を公表する。《47》</p>	<p>《46》本科4年生を中心にインターンシップに延べ人数で200名が参加し、就業体験した。参加者数は昨年度より22名の減となったが、これは2社で計10日間の実習を行った学生が減少し、1社で10日間の実習を選択した学生が増えたことが一因で延べ人数が減少したものである。今後も4年生全員が参加することを目指し、近隣企業への協力要請を強化していきたい。受入先企業数については、昨年度135社、本年度は123社であった。</p> <p>《47》専攻科生も夏休みを利用したインターンシップに3名参加し、さらにISTS海外研修にも1名参加した。また、豊田市及び豊田商工会議所と連携した「共同教育」である「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」を実施しており、その取り組み事例を、本校ホームページ、「とよたイノベーションセンター事業報告書」及び広報「一気通観だより」等により公表した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>⑦-1 専攻科において、企業技術者や外部の専門家と協働した教育体制の構築を図る。そのため、地元自治体の豊田市及び豊田商工会議所との連携強化に努める。《48》</p> <p>⑦-2 地域の先進的ものづくり企業と連携し、ものづくり現場における実践的な課題に取り組むプロジェクト実習を実施する。《49》</p> <p>⑦-3 日本弁理士会東海支部の協力を得て、専攻科生を対象に知財教育を実施する。《50》</p>	<p>《48》豊田市及び豊田商工会議所と連携した「共同教育」である「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」を実施しており、その取り組み事例は、本校ホームページや「とよたイノベーションセンター事業報告書」で公表した。さらに、(株)デンソー技研センター(株)デンソーの人材育成機関)と連携し、高い技能をもった指導員による学外研修を受講生が受講した。(5月23日)</p> <p>《49》一気通観エンジニアの養成プログラムにおいて、専攻科生が参加し、地元企業技術者との混成チームでの教育を行った。</p> <p>また、本科においても、自動車部品メカにおいて、企業技術者及び本校教員の指導を受けながら、企業の問題解決を行うプログラムを実施した。</p> <p>《50》日本弁理士会東海支部の協力を得て、知財セミナーを12月5日に専攻科生、一気通観エンジニアの養成プログラム受講生及び教職員を対象に実施した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>⑧ 豊橋技術科学大学との連携協定に基づき、教員交流・出前授業・オープンキャンパス行事の相互参加などの連携事業を実施する。《51》</p>	<p>《51》豊橋技術科学大学との連携協定に基づき、オープンキャンパスに相互出展した。(豊橋技術科学大学オープンキャンパス:8月25日、本校オープンキャンパス10月6日・7日)</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>⑨-1 「共同教育」について長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学を初めとし、高専も含め多数の学校との、「eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定」により提供されるeラーニング科目をその授業内容を検討した上で、引き続き学生へ提供する。《52》</p> <p>⑨-2 学内向けWWWサーバにeラーニングシステムを構築し、情報教育センターの演習室を利用する科目を登録して、電子的な資料の配布や課題の提出を行う。また、情報工学科では、学科専用の50以上のコースを活用する。《53》</p>	<p>《52》eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れた結果、次のとおりであった。</p> <p>【前学期受講生数】長岡技術科学大学:58名(延べ人数)、【後学期受講生数】長岡技術科学大学:13名、九州工業大学:3名</p> <p>外部の関連科目を学ぶ機会が増え、ICT教育による学習習慣が定着するのに寄与している。</p> <p>《53》学内向けWWWサーバにmoodleを使用したeラーニングシステムを構築。マルチメディア情報教育センターからの連絡事項、情報セキュリティ対策の基礎知識(独立行政法人 情報処理推進機構 作成)を掲載している。</p> <p>また、情報工学科においてはmoodleを使用して50以上のコースを活用している。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>(5)学生支援・生活支援等</p> <p>①-1 機構等が開催する教職員を対象とした学生のメンタルヘルスに関する講習会に積極的に参加するとともに、本校においても学生・教職員を対象としたいじめ・自殺防止対策をはじめとする学生指導等に関する講習会を実施する。</p> <p>また、平成28年度に拡充した学生サポート室を中心に学生のメンタルヘルスについての取組を強化する。《54》</p> <p>①-2 学生サポート室の運用面での充実を図り、より一層の学生サポート体制を強化する。《55》</p> <p>①-3 「障害者配慮申請書」を提出した学生に対して、個別の「指導計画」を本人、保護者、関係教職員で立案し、各部署で学習や生活面の目標を共通認識し、支援できる体制を整える。《56》</p> <p>①-4 1年生、2年生の状況に応じた学寮におけるアセンブリを開催し、生活サポートを行う。《57》</p>	<p>《54》精神科医1名と臨床心理士4名を昨年度に引き続き雇用(非常勤)した。加えて夏季休業期間中または休業期間明けの相談日数を増やすなど、休業期間明けの体制を強化した。学生サポート室長及び看護師は、「東海・北陸学生支援連絡会議」(9/10-11)及び「高専学生支援担当教職員研修(9/13-14)」に出席し、東海・北陸地区及び全国の相談室担当者や情報交換を行った。</p> <p>また、「学校いじめ防止基本方針」を本校HPに公開するとともに「いじめに関するアンケート」を10月から11月にかけて実施し、教職員に対しては「障害学生支援」をテーマにワークショップを12月26日に実施した。</p> <p>《55》学生生活のアドバイザーとして、本校の教務主事、学生相談室長を経験し定年退職した教員を、昨年に引き続き雇用することでサポート体制を維持した。</p> <p>《56》障害学生支援の取り組みとして、配慮内容の検討、決定から学校内への決定内容の展開等、当該学生に対する支援の充実を、組織づくりを始め具体的に整備した。</p> <p>《57》平成30年5月16日及び7月11日に、1年生、2年生の状況に応じた内容で学寮アセンブリを開催し、生活サポートを行った。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>
<p>②-1 課題解決の支援に重点を置き資料収集を行う。《58》</p> <p>②-2 学生の安全確保のため、寄宿舎の防犯カメラを増設する。《59》</p>	<p>《58》課題解決の支援に重点を置き、キャンパスマスタープランの中で学生支援施設(学生寮、福利厚生会館)について見直しを行い、新しいキャンパスマスタープランを策定した。</p> <p>《59》学生の安全確保のため、寄宿舎の防犯カメラを増設した。</p>	<p>○ 年度計画を十分に実施している</p>

豊田工業高等専門学校 平成30年度年度計画	実績報告(自己点検書)	自己評価
<p>③-1 学生や保護者に各種奨学金制度の情報を積極的に周知する。その際、WEBページ、掲示、プリント配布、指導教員からの周知だけでなく、該当者には個別に情報発信し、積極的に周知するとともに、必要な説明会を随時実施する。《60》</p> <p>③-2 創立50周年記念行事の一つとして設けた学生支援基金の活用を引き続き進める。《61》</p>	<p>《60》合格者オリエンテーション時(3/11)に、学生及び保護者へ日本学生支援機構等の奨学金制度について(プリント配付及び口頭説明により)案内を行った。 また、在校生には、本校HP、電子掲示板への掲示及び指導教員から募集案内を告知し、希望者については、随時、学生課窓口で個別に説明した。 さらに、地方自治体が実施する奨学金制度案内についても電子掲示板等に掲示し、希望者については個別に学生課窓口で説明を行った。 一方、貸与満期を迎える学生に対しては、返還説明会を11月22日に実施し、奨学金返還の重要性や延滞防止に向けた指導を行った。</p> <p>《61》学生支援基金を原資とした学生支援奨学金の活用対象(学生又は学支負担者の不測の事態による困窮)となる学生はなかった。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>④-1 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、学科長及び指導教員と連携し、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制をより充実させる。進路決定に向けてのキャリア教育支援プログラム(各種講座や面接指導)を有効に活用しながら学生の就職及び進学に関して進路指導を丁寧に行う。また、その取り組みをWWW上で公開する。《62》</p> <p>④-2 学科長及び指導教員が連携し、就職・採用活動の日程を遵守するとともに、企業等に対して、WWWページ等を利用してそうした姿勢を周知する。また、本科4年生の「校外実習」および専攻科1年生に対する「インターンシップ」について、就業体験を通じた教育活動である旨を、指導教員を通じて学生に理解させた上で参加させることを徹底する。さらに、指導教員及びキャリア教育支援室を中心に、低学年から学習意欲の向上・将来に対する目標設定のための教育活動を組織的に行い、1年生から学年進行に応じた必要な行事、講演及び体験を計画的に実施する。《63》</p>	<p>《62》学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するための提供・相談体制の見直しについて検討した結果、各学科における従来の体制と並行して、年間700件以上の求人票データを閲覧可能な進路検索システムの整備、大学案内・求人票を学生が自由に閲覧できる進学・求人情報コーナーを学生談話室へ設置した。 また、進路決定に向けてのキャリア教育支援プログラムについては、1学年の将来イメージ講座(6/15)に始まり、2～3学年の今の私卒業後の私(6/27、11/28、12/12)、4年生のインターンシップに向けたビジネスマナー等の研修講座(7/18)、本格的な就職準備に向けた就職活動支援講座(11/22)、大学工学部への編入学試験について情報援助を行う編入学説明会(12/19)等を実施した。なお、これらの取組についてはキャリア教育支援室のHPにおいて公開した。</p> <p>《63》企業採用担当者に対し、本校HPにおいて採用日程等の遵守を要請している。また、インターンシップにおいては、教員による実習先の巡回等のもと延べ200名が参加した。 本校就職キャリア教育支援室においては1年から5年までの各学年において、目標を定め、段階的、組織的にキャリアを身につけさせる活動を行った。1学年では合宿研修(6/15・16)、2学年では人間力講演会(12/5)、3学年では社会が求める人材講演会(5/23)等を開催し、4学年及び専攻科1学年では、本格的な就職準備に向けたビジネスマナー講座(7/18)、さらに1月以降には履歴書の作成・添削(1/20)、模擬面接講座(2/26)等を実施した。 また、例年どおり地元企業との連携によるしごとガイダンス(1/23)、同窓生との連携による模擬面接(3/16)も行った。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>(6)教育環境の整備・活用 ①-1 安全・安心な教育環境を整備するため、基幹・環境整備(消火給水設備等)について、平成31年度概算要求を行う。 施設・設備の不具合について、施設環境整備委員会で状況を把握した上で、緊急度等を勘案し修繕等の対応を計画的に実施する。 講義室等の照明のLED化を計画的に進める。 老朽化した空調設備の改修について営繕要求を行う。《64》</p>	<p>《64》平成31年度概算要求として安全・安心な教育環境を整備するため、「基幹・環境整備(消火給水設備等)」の要求を行った。また、地域産業界との共同教育等の実施の場となる「ものづくり工房棟」についても要求を行った。 施設・設備の不具合について、施設環境整備委員会で状況を把握した上で、緊急度等を勘案し修繕等を行った。 第1体育館、第1講義棟のLED化を実施した。 老朽化した情報工学科棟及び第2講義棟の空調設備について営繕要求を行った。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>①-3 PCB廃棄物について、適切な保管・管理を行い、平成30年度内に廃棄を実施する。《65》</p>	<p>《65》平成30年度以前から保管していたPCB廃棄物については中間貯蔵・環境安全事業株式会社との契約に基づき平成30年11月16日付けで最終処分を完了とした。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>②-1 「実験実習安全必携」を学内グループウェアで閲覧できるようにする。《66》</p> <p>②-2 新入生及び新任教職員を対象に、「安全衛生に係る講習会」を実施する。《67》</p> <p>②-3 全学科において、学生を対象に安全衛生教育を実施し、報告書を作成する。《68》</p>	<p>《66》「実験実習安全必携」を学内グループウェアで閲覧できるようにした。</p> <p>《67》新任教職員については、4月4日の新任教職員研修時、新入生については、4月18日の合同ホームルーム時に安全衛生教育を実施した。</p> <p>《68》実験等を始める前に安全衛生教育を実施し、その報告書を安全衛生委員会に随時提出させた。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>③ 男女共同参画推進室及びキャリア教育支援室が協力して、教職員あるいは学生を対象として、社会で活躍する女性講師を招いた講演会やセミナーを開くなど具体的な活動を行う。 また、本校女性教職員もしくは本校女子学生による茶話会を開催し、本校における男女共同参画の現状と課題を探る機会とし、今後の講演会、セミナー、ワークショップのテーマ、方法を定める際に活用する。《69》</p>	<p>《69》男女共同参画に関する情報を広く学内に周知した。 女性向けの講演会やセミナー、研修等の案内を積極的に女性教職員や女子学生へ行い、一部の参加旅費を支援した。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>2 研究や社会連携に関する事項 ①-1 科学研究費助成事業応募のためのガイダンスを開催する。《70》</p> <p>①-2 技術展示会への出展を企画・実施し、技術シーズの発信を行う。《71》</p>	<p>《70》9月19日の教員会議において、総務主事から平成31年度科研費応募に関する説明を行った。更に、10月10日には、外部講師を招き「科学研究費獲得に向けた講演会」として、科研費応募の際の注意事項やポイントなどの講演を行った。</p> <p>《71》3月21～22日開催の「とよたビジネスフェア」に出展し、技術シーズの発信を行った。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>②-1 地元自治体である豊田市と豊田商工会議所との連携組織である「とよたイノベーションセンター」を活用し、技術シーズの発信・技術セミナーの開催・技術相談等を通して、効果的な技術マッチングに取り組む。また、その成果を公表する。《72》</p>	<p>《72》とよたイノベーションセンターのコーディネーターが企業に出向き技術相談等を通して広くマッチングに取り組んだ。平成31年3月21日、22日の「とよたビジネスフェア」に出展し、本校のPRとシーズの発信を行った。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>③ 知的財産に関する講習会を開催し、教職員の知的財産に対する意識を高める。《73》</p>	<p>《73》日本弁理士会東海支部の協力を得て、知財セミナーを12月5日に専攻科生、一気通観エンジニアの養成プログラム受講生及び教職員を対象に実施した。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>④ とよたイノベーションセンターを活用し、豊田市や豊田商工会議所と連携した広報体制を整備することで、教員研究や技術シーズに関して、効果的な情報発信を行う。《74》</p>	<p>《74》とよたイノベーションセンターのコーディネーターが企業に出向き技術相談等を通して広くマッチングに取り組んだ。平成31年3月21日、22日の「とよたビジネスフェア」に出展し、本校のPRとシーズの発信を行った。また、シーズ集は本年度から紙媒体を廃止し、WEBにおいて発信している。</p>	○ 年度計画を十分に実施している
<p>⑤-1 小中学校向けの出前授業や理科教室の開催を通して、子どもたちの理科教育支援を行う。《75》</p> <p>⑤-2 豊田市の中学生を対象とした科学啓発活動等に参画する。《76》</p> <p>⑤-3 公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、内容の充実を図る。《77》</p> <p>⑥-1 同窓生等と連携し、卒業生の動向を把握し、卒業生による在校生のための講演会及び模擬面接講座などを開催するなど、引き続き卒業生とのネットワークの活用を図る。《78》</p> <p>⑥-2 地域貢献として年5回、駅から本校周辺区域の清掃を環境美化活動の一環として実施する。《79》</p> <p>⑥-3 本校で制作した小水力発電装置を豊田市等の山間地等に設置する。《80》</p> <p>⑥-4 学生が主体となる活動「ドミタウン」プロジェクトを実施し、過疎化が進む山間地と都市部の住民の交流を行い、地域活性化に貢献する。《81》</p>	<p>《75》小中学校向けの出前授業を29講座実施した。</p> <p>《76》10月28日及び11月25日に、「とよたサイエンスクラブ」の一環として講座を行った。(受講生24人)</p> <p>《77》参加者へアンケート調査を実施した結果、平成30年度に実施した公開講座について、9割以上から好評を得ることができた。「とても良かった」との回答67%、「良かった」との回答)</p> <p>《78》11月7日に同窓会と連携し、学科ごとに卒業生を講師に招き講演会を実施した。 また、3月16日に同窓会の協力を得て模擬面接講座を実施した。</p> <p>《79》環境美化活動の一環として、平成30年度は5回(5/9、6/13、10/3、10/31、1/16)最寄り駅から本校周辺区域の清掃を行った。 また、吹奏楽部が障害者福祉施設を訪問演奏(9/4)、及びジャグリング部が地域の福祉施設等で訪問演技(9/15、10/13、12/9)を行った。</p> <p>《80》本校で制作した小水力発電装置を豊田市の山間地等に設置した。</p> <p>《81》豊田市の中山間地域の一つである笹戸地区において、地元自治体の協力を得て、「ドミタウン」プロジェクトを実施し、36名の学生が活動に参加した。8月には、市街地の小学生を集め、セカンドスクールを笹戸で実施した。参加した小学生及び保護者からは高い評価を得ている。</p>	◎ 年度計画を上回って実施している
<p>3 国際交流等に関する事項 ①-1 本校の視察・見学を希望する海外の学生、技術者等を積極的に受け入れる。《82》</p> <p>国際交流協定の締結に向けて、教員の海外の教育機関との学術交流を引き続き進める。《83》</p>	<p>《82》9月12日にベトナムのホーチミン市技術・経済短期大学の学長をはじめとする関係者9名の訪問を受け入れ、施設見学、意見交換等を実施した。 11月12日にドイツのアーヘン専門大学の執行役員の訪問を受け入れ、施設見学、意見交換等を実施した。</p> <p>《83》国際交流委員会において、協定の締結について情報収集を行っている。</p>	○ 年度計画を十分に実施している

豊田工業高等専門学校 平成30年度年度計画	実績報告(自己点検書)	自己評価
①-2 海外への留学を希望する学生を支援するための情報提供を積極的に行う。まず、AFS・YFUによる1年間の長期留学を希望する学生にYFU主催の留学説明会を校内で実施し、元YFU留学生の在校生が中心となって説明する。そして、留学を希望し受験許可を出した学生に対しての受験説明会や、合格者に対する留学オリエンテーションも実施する。また、トビタテ！留学JAPANの制度を活用し留学を希望する学生を増やすため、元トビタテ生にも協力してもらい、校内で年3回(大学生コース年2回、高校生コース年1回)説明会を実施するとともに、書類作成でのアドバイスや書類選考で合格した学生に対する面接対策など、きめ細かな支援を行う。さらに、本校が提携しているドイツ・アーヘン専門大学への留学説明会も年2回実施し、留学経験者による情報提供も行う。こうした情報は、一部他高専にも提供する。一方、機構等が主催・企画する海外インターンシップへの積極的な参加を促し、帰国後に多くの学生を対象に報告会を開催するとともに、より多くの学生へ意識付けを図る。また、文部科学省が企画する海外インターンシップを学生に周知し、参加が決まった学生への事前・事後の指導を行う。《84》	《84》AFS・YFUによる1年間の長期留学を希望する学生にYFU主催の留学説明会を4月12日に校内で実施し、元YFU留学生の在校生が中心となって説明を行った。本科1学年8名、2学年54名の合計62名が参加した。留学を希望し受験許可を出した46名の学生に対して受験説明会を5月10日に行い、そのうち43名が留学選抜試験に合格した。また、昨年度合格し留学が決まっていた学生に対し、出発前の留学オリエンテーションを7月12日及び7月19日に校内で実施した。 トビタテ！留学JAPANについては、大学生コースの説明会を8月9日及び1月10日、高校生コースの説明会を12月13日に校内で実施し、書類作成時のアドバイス等を行った。また、現役トビタテ生の協力により面接対策等の支援を行った。 本校が提携しているドイツ・アーヘン専門大学への留学説明会を4月19日及び12月20日に校内で実施し、留学中の学生によるドイツでの生活、アーヘン専門大学の様子等の情報提供を行った。 本年度、機構等が企画する海外インターンシップについて、案内がある都度、掲示等積極的に公募を行い参加者を募ったが応募者はいなかった。 豊田市によるイングランド・ダービーシャー市英語研修派遣(2週間)に昨年度に引き続き第2学年の学生1名を推薦し、豊田市により派遣された。官民協働海外留学支援制度トビタテ！留学JAPAN高校生コースでは、奨学金により、アメリカ合衆国サンタバーバラに電気・電子システム工学科第2学年の学生1名が約3週間「日本の地方再生」をテーマに留学した。また、ドイツ国アーヘン専門大学には機械工学科及び環境都市工学科第4学年の学生2名が約1年間それぞれの目的のため留学した。	○ 年度計画を十分に実施している
② 機構本部主催、あるいは第3ブロックの国際交流担当者会議に参加し、留学指導に関する情報交換を積極的に行うとともに、外国人留学生の受け入れに向けた環境整備をさらに促進する。また、チューターや教職員との交流を通して、外国人留学生の体力的及び精神的健康を促進させつつ、学習支援及び生活支援を引き続き充実させる。《85》	《85》7月5日、6日に開催された「全国国立高等専門学校 国際交流室・国際交流センター長会議」に出席し、他高専での外国人留学生への生活支援、高専の国際化及び留学についての情報収集を行った。 外国人留学生のキャンパスライフの充実を図るため、情報交換と協調の場として年2回、外国人留学生と学生及び教職員との交流会を実施し、外国人留学生は得られた情報をもとに学習及び学寮生活に活かしている。 また、外国人留学生の体力的及び精神的健康を促進させ、チューターや教職員との交流のために、1か月に1回程度(年間7回)、国際交流委員会主催でバドミントンやソフトバレーなどのレクリエーション交流を行っている。	○ 年度計画を十分に実施している
③外国人留学生に日本の歴史・文化・社会・自然に触れさせる研修旅行を継続して年1回実施する。また、平成30年度豊田高専主管の東海地区外国人留学生交流会を計画し、外国人留学生を積極的に参加させ、他高専の留学生との交流を図る。さらに、豊田市のボランティア団体と協力して、日本人家庭ホームステイを前年度同様企画し、実施する。《86》	《86》本年度は、本校が東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会の担当校となっていることや、また、予算の関係から本校の外国人留学生研修旅行は東海地区の外国人交流会との共催とした。 また、12月23日から12月24日に、東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会(豊田市内及び岡崎市内の著名工場や歴史的文化的財等の見学)を本校が担当校となり実施した。本校からは外国人留学生(11名)、引率教職員(9名)が参加した。 豊田市国際交流協会登録団体の協力により、1月12日～14日(2泊3日)にホームステイを企画し、4名の外国人留学生がそれぞれ日本人の家庭にホームステイを実施した。 これらの活動により、外国人留学生に対して日本の歴史、文化、社会及び自然を体験させることができた。	○ 年度計画を十分に実施している
4 管理運営に関する事項 ①-1 校長のリーダーシップの下、戦略的・重点的な予算配分を行う。《87》	《87》5月15日の総務会議において、校長裁量経費を含む校内予算の配分を決定した。校長裁量経費として昨年度とほぼ同額を確保し、教育環境整備に重点を置いた配分や公募型の教育・研究支援経費である「教育研究プロジェクト経費」を昨年同様再開し、本年度は23件のプロジェクトを採択し、教育研究活動の活性化を図った。また、校長のリーダーシップの下に追加予算及び寄付金を重点配分し、サステナブルキャンパス形成に向け、第1体育館、第1及び第2講義棟のLED化及び学寮環境整備(防草シート及び防犯砂利施設)を実施した。	○ 年度計画を十分に実施している
②地区高専校長会議及び昭和38年度校高専校長会議において情報交換をするとともに、ブロック校長会議で高専の在り方について検討を進める。《88》	《88》地区高専校長会議及び昭和38年度校高専校長会議で高専の在り方について意見交換を行った。	○ 年度計画を十分に実施している
③業務の集約化及びアウトソーシングの活用について実施に向けた検討をする。《89》	《89》高専機構「業務マニュアル」を活用し、規則に基づいた会計処理を適正に実施するなど各部署において業務マニュアルの整備を進めている。	○ 年度計画を十分に実施している
④-1 機構が作成した「コンプライアンス・マニュアル」及び「コンプライアンスに関するセルフチェックリスト」を活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。《90》 ④-2 全教職員を対象とした公的研究費等不正使用防止研修会を開催し、教職員の意識向上を図る。《91》 ④-3 内部会計監査を確実に実施し、内部統制を図る。《92》 ④-4 全教職員及び学生による防災訓練を引き続き実施し、災害発生時への現実的な対応を浸透させる。《93》	《90》新たに本校に採用された教員には、マニュアルを配布するとともに、全教職員が確認できるようデスクネット(電子掲示板)に掲載している。 また全教職員がセルフチェックを行い、コンプライアンスの向上を図った。 《91》全教職員対象の公的研究費等不正使用防止研修会を9月19日ほか6回実施し、理解を深めた。 《92》高専相互会計内部監査を11月22日に受検した。科研費の内部監査を12月10日に実施した。いずれの監査においても適正に執行されていることが確認された。 《93》10月10日に全教職員及び学生を対象とした防災訓練を実施した。訓練では、避難訓練、自衛消防隊による初動訓練、消火器等の使用訓練、煙道体験、起震車による地震体験、消火栓放水訓練及び一斉メールシステムによる安否確認訓練を行った。	○ 年度計画を十分に実施している
⑥「独立行政法人国立高等専門学校機構における公的研究費等不正防止計画」を継続して実施し、不正使用及び不適正経理の防止に努める。《94》	《94》「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を踏まえた全教職員対象の公的研究費等不正使用防止研修会を9月19日ほか6回実施した。 なお、研修内容の理解度を把握するため、理解度測定をあわせて実施した。	○ 年度計画を十分に実施している
⑦-1 事務職員や技術職員に能力の向上を目指した文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会に積極的に参加させる。《95》 ⑦-2 引き続き新任職員に対しては、年度早々に新任職員研修を行い、その他必要に応じて業務に関係する各種研修を行う。《96》	《95》事務職員や技術職員に能力の向上を目指した文部科学省、国立大学法人、人事院等が主催する研修会に積極的に参加させた。 また、技術職員1名を豊田市開催のスタディツアーに参加させた。 《96》4月4日に新任職員研修を行った。	○ 年度計画を十分に実施している
⑧ 事務職員・技術職員について、高専間、国立大学法人等との人事交流を引き続き積極的に推進する。《97》	《97》事務職員について、国立大学法人等との人事交流を引き続き実施した。平成29年3月22日に新たに愛知教育大学と人事交流を含む連携協定を締結し、平成29年から人事交流を開始し継続している。	○ 年度計画を十分に実施している
⑨CISCO IT Essentials等の研修を受講し、学生・教職員の情報セキュリティ教育を促進する。《98》	《98》 ・電子決裁による情報セキュリティのセルフチェックを行った。 ・教職員を対象とした情報セキュリティ教育(eラーニング)を実施した。 ・教員1名がCCNA Routing & Switchingインストラクター講習会(8/23-30,2/28-3/7)を受講した。 ・教員2名がCISCO IT Essentials(-8/28)を受講した。 ・技術部職員1名が平成30年度IT人材育成研修会(9/10-12)に参加した。 ・技術部職員2名が平成30年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会(11/14-16)に参加した。 受講を通じて、学内でのネットワーク管理、機器設定、ネットワーク・セキュリティ教育等に対するスキルの向上を行った。	○ 年度計画を十分に実施している
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ①施設環境整備委員会において環境指針を策定し、これを踏まえた取組により省エネの促進を図る。《99》 ②契約に当たっては、原則として一般競争入札を実施し、1社応札のないよう慎重な仕様策定を行い、競争性の確保に努める。《100》 ③業務マニュアルの見直しにより、各係の業務内容を把握の上、整理を行い、人員の適正配置等を検討する。また、職員については、変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的活用を推進する。《101》	《99》施設環境整備委員会において「平成30年度 豊田工業高等専門学校の環境目的、環境目標及び取組内容」を策定し、3月29日の総務会議において周知を行った。これを踏まえた省エネへの取り組みとして、空調温度設定の徹底を図り、総務会議及び施設環境整備委員会が定期的に光熱水料の実績報告を行うなど、更なる省エネに対する意識向上を図っている。また、12月下旬に学内一斉点検を実施し、暖房設定温度、暖房器具等の確認及び指導と危険箇所のチェックを実施した。 《100》仕様内容の策定に当たっては、より多くの業者が参加できるように努めている。また、これに加え、入札公告の期間を2週間程度は確保するように努めている。 《101》業務マニュアルの見直し等により、各係の業務内容を把握に努め、適正な人員配置、有為な人材の育成及び職員の適材適所への配置を推進した。 また、職員については、変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的活用を推進した。	○ 年度計画を十分に実施している

豊田工業高等専門学校 平成30年度年度計画	実績報告(自己点検書)	自己評価	
Ⅲ 予算 ①引き続き、外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業等)の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加に努める。《102》	《102》外部資金の取得に積極的に取り組んだ。 9月19日の教員会議において、総務主事から平成31年度科研費応募に関する説明を行った。更に、10月10日には、外部講師を招き「科学研究費獲得に向けた講演会」として、科研費応募の際の注意事項やポイントなどの講演を行った。	○	年度計画を十分に実施している
2 人事に関する計画 (1)方針 教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用した交流を積極的に行う。職員は、高専間、近隣の機関(名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、愛知教育大学、岡崎統合事務センター)と積極的に交流を進める。《103》 (2)人員に関する指標 業務マニュアルの見直しにより、各系の業務内容を把握し整理の上、人員の適正配置等を検討する。変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的な活用を推進する。《104》	《103》教員は、「高専・両技大間教員交流制度」により派遣者の受入れ希望を行ったが、今年度は希望者はなかった。職員は、岐阜高専から1名の受入、名古屋大学から2名の受入と2名の派遣、愛知教育大学から1名の受入と1名の派遣、及び名古屋工業大学から1名の受入を行った。 《104》引き続き業務マニュアルの見直し等により、各系の業務内容を把握し整理の上、人員の適正配置等を検討した。併せて、変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的な活用を推進した。	○	年度計画を十分に実施している